

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

## 10月22-23、中信安全登山研究会「登山研修交流会」

今年度の中信安全登山研究会「登山研修交流会」が下記のとおり開催される。この「研修交流会」は、2003年度より継続的に開催してきており、山岳部顧問相互の研鑽・交流の場となっている。昨年度からは中信高体連の講習会としても位置づけていただき、金銭的な援助もしていただいている。今年度の県大会では、「背負い搬送」を余儀なくされる場面があったが、このとき中心に動いてくれた浮須さんと小沼さんは、この研修交流会で経験していたことが大いに役に立ったと言っている。今年度は、実技においては「大町山案内人組合」が拓いた新しい登山道を使って読図や搬送などを行う予定である。要項にも書かれているが、技術的な部分を研修するとともに、顧問間の交流も重要な柱にしている貴重な会である。中信地区に限らず、こういった研修の場がない県内外の多くの先生方（顧問に限らず、経験も不問）、また生徒諸君の参加を希望する。以下、開催要項を掲げます。蛇足ながら・・・初日は、この夏に行った阿克沙衣峰の偵察や新疆の状況についてスライドを使って報告しますので、お楽しみに。

### 中信安全登山研究会「登山研修交流会」開催要項（抜粋）

日程および内容

日時	場所	内容	備考
10月22日 金	18:10	山岳総合センター 信高山岳会 2010 阿克沙衣山群 主峰 偵察行のスライド上映	
	19:00	同上 活動交流・懇親・夕食	山岳部の活動についての意見交換と顧問間の交流
	21:00	同上 就寝	
10月23日 土	6:30	同上 起床 ・ 朝食 ・ 清掃	
	8:00	白沢天狗山登山 実習 8:00 山岳総合センター出発 ・ 白沢天狗山(2036m)登山 ・ 途中危急時対策：搬送訓練 ・ 読図	大町山案内人組合が拓いた登山道を登山 25000 分の一地形図では「大町」
	15:00	終了・解散	

講師 今滝 郁夫 氏（大町北高校教諭） 大西 浩 氏（池田工業高校教諭）

持ち物

- 1) 実技 日帰り登山装備（行動食は各自でご用意下さい）、ある方は熊鈴、搬送

訓練で必要と思われるもの

ツェルト、ブルーシートなどビバーク用装備（ビバーク体験したい方）

- 2) 宿泊 宿泊用具は山岳総合センターにあります。

費用 宿泊費 500 円、食費は実費。

その他

- 1) 全日程でなくてもかまいませんので、ご参加ください。

- 2) 基本から行いますので、経験の有無に関わらず、ご参加ください。
- 3) 用具等がない場合は、ご相談ください。
- 4) 生徒にも有意義な研修になると思いますので、クラブ活動と合わせての参加も歓迎します。生徒と一緒にご参加下さい。
- 5) 人数集約の都合上、10月12日までに出席票をお送りください。
- 6) 地形図 「大町」は事務局で準備いたします。既にお持ちの方はご持参下さい。

## 風強し「岩手山」頂上直下で断念

松田さんと2人で2日、3日と岩手県盛岡市へ行く機会を得た。用事は、元岩手医科大学の山岳部の「アクサイ峰偵察隊」隊長を務めた利部さんという方にお会いすることであった。岩手医科大学は98年にアクサイ峰の偵察を行ったが、故あってこの山に本隊を派遣し、登ることは叶わなかった。ヌルさんからその情報を得ていたの、今夏の偵察が不首尾に終わって帰国した後、僕は12年前のヌルさんの情報をもとに、同医大山岳部、またかつて利部さんが勤務されていた盛岡日赤病院など間接的にアプローチをして、なんとか利部さんと連絡をとることができたのだった。2日の午後にアポイントメントをとった我々は、利部さんと会い有意義な情報をいくつか得たあと、行きがけの駄賃と、翌3日、岩手山に登ることにした。

2日夜は、岩手山の東麓の馬返しキャンプ場に幕営。やはり人気のある山なのであろう、朝早くからマイカーの登山者のほか、大型バスが何台もやってきてはツアー客を吐き出す。我々もテントを撤収して6時45分に出発。30分ほど登った0.5合目が旧道と新道の分岐。どちらをとっても距離的にはほぼ同じだが、旧道はガラ場を、新道は樹林帯を行くとのこと。我々は旧道に道をとることにした。2合目で一度合流した道は、3合目(1060m)で再び分れた。北の山ではこのあたりから紅葉が見頃である。暫く行くと樹林帯から離れ道はガラ場となる。予報では、太平洋岸に沿って低気圧が近づき、今日は大荒れとのことであったが、今のところガスは湧いてきたものの雨は降って来ない。しかし風が強く下からの吹き上げの南風が痛いくらいである。休む場所もないので、そのまま登り続け、9:00には8合目の避難小屋に到着。不動平という頂上ドームの下のお花畑に建てられた立派な小屋である。なんでも、県の委託を受け岩手県山岳協会が管理をし、協会加盟の山岳会員15人くらいで回しているとのこと。腹ごしらえと身支度をして頂上へ向かった。

およそ20分九十九折れの道を辿って、9:40頂上のお鉢の一番南の一角に到着。風が強い。時折風に吹き飛ばされたガスの切れ目から山頂が望めるので、そこを目指して大きなお鉢を時計回りに進んでいく。ところが山頂が指呼の間に望めるやや稜線がコル状になった地点で動けなくなった。ちょうどお鉢からの吹き上げの風の通り道となっている。耐風姿勢をとって風の止むのを待つ。市2分、3分、5分・・・普通はどんな強風でも息をつく。しかし、我々を阻むかのように吹く風は10分待っても息をつかない。大さんの顔を見ると鼻水に黒い火山灰が張り付きまるで髭をはやしたかのようだ。他の登山者も動けないでいる。頂上までは標高差であと20mを残すばかりである。這いつくばっていけば行ける。せっかく来たのであるし、無念の思いはあったがしかし、そうまでして登ることもあるまい、とここから下山することにした。下りは足下に広がる陸自の砲撃演習の音を聞きながら、新道を下った。